Topics｜※支部の名称

河川を活かしたまちづくり －北海道　旭川市における「かわまちづくり」

小西　英敏　　国土交通省北海道開発局　建設部　河川計画課　河川計画調査官

1. はじめに

「かわまちづくり」とは、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組みです。地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者、地元住民と河川管理者が連携し取り組みます。また、市民・企業・行政が三位一体となり、水辺好きの輪を広げまちづくりの未来を改革していく「ミズベリング」の取組が全国各地で展開されています。

2. 旭川市かわまちづくり

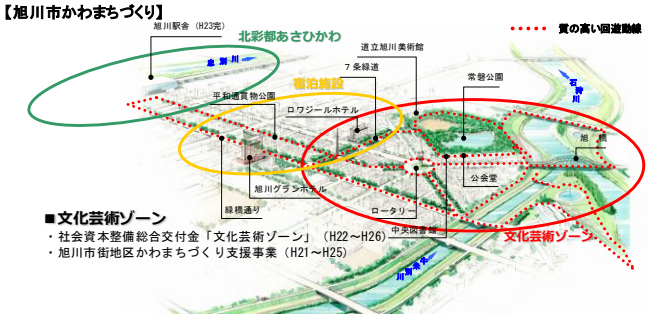
旭川市は、道内第 2 の人口を要する中核都市であり、「川のまち旭川」と言われるように、大雪山を源とする石狩川・忠別川･美瑛川・牛朱別川など多くの川が市街地に放射状に流入しており、旭川市街地区の河川敷地は身近で貴重なオープンスペースとして、市民に親しまれています。

「旭川市かわまちづくり」は、旭川市と北海道開発局（以下、開発局）が連携し、石狩川沿いにある常磐公園周辺地区の再整備を行いました。管理用道路の整備等で、人の流れを中心市街地の活性化につなげ、石狩川など河川空間を利用した文化芸術的資源のネットワーク化を図るとともに、民間事業者との連携で利便性向上を図り、観光都市の機能を高めました。

南側の交流拠点として、旭川駅及び周辺の再開発事業である「北彩都あさひかわ」により、自然環境を生かした緑豊かな都心空間が創出されました。開発局では隣接する忠別川にて堤防の緩傾斜化や親水護岸等により、にぎわいのある水辺空間の整備を行いました。

かわまちづくりの計画は、水辺空間を中心市街地の活性化につなげるため、南北に二つの交流拠点を創出し、その中間に位置する宿泊施設も含めて質の高い快適な動線でつなぎ、市民はもとより観光客の周遊を促すコンセプトになっています。

旭川市かわまちづくり整備後の利用状況



3. 旭川市における更なる「かわまちづくり」の展開

令和 4 年、JR 旭川駅南側地区を拠点に、忠別川・牛朱別川の水辺整備・利活用により、サイクリングやラフティング等の推進、地域特有の観光・教育資源との有機的な連携を図り、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指すため、旭川市やサイクリング協会、ミズベリング旭川等で構成される「旭川駅周辺かわまちづくり懇談会」が発足しました。

今後、旭川市の地域性を活かした更なる「かわまちづくり」が進められることが期待されます。

川のまち旭川のシンボル、旭橋を背に

4. かわたびほっかいどう

このようなかわまちづくり等で整備された河川空間のほか、身近で豊かで美しい自然を有する河川空間などを含めて、その特徴を活かした利活用を促進するため、開発局では「かわたびほっかいどう」という取り組みを行っています。北海道の河川の魅力や、イベントやアクティビティ等の情報をＨＰやＳＮＳで効果的に発信し、北海道らしい地域づくりや観光振興を応援し、地域と一緒に水辺の利活用を図り、北海道の魅力を最大限に引き出していくことを目指しています。

かわたび ほっかいどう